

海外視察報告(タイ)

企画委員会 委員長 山口 均
(株式会社島津製作所)

■海外視察団でタイ・バンコクを視察

11月21日(火)～25日(土)の5日間、日本真空工業会海外視察としてタイ・バンコクを訪問した。タイ国王崩御の時期と重なり昨年とは計画していた本視察を延期し、本年改めて再企画。

視察団の構成は(株)島津製作所のJVIA篠原会長を団長、神港精機(株)JVIA眞下副会長を副団長として以下の合計14名(11社)が参加。

【参加企業】

(株)アルバック、アルバックテクノ(株)、入江工研(株)、(株)大阪真空機器製作所、佐藤真空(株)、(株)島津製作所、島津プレシジョンテクノロジー(株)、(株)昭和真空、神港精機(株)、東和工業(株)、(株)フジキン

■JETRO(日本貿易振興機構) バンコクオフィス訪問

JETROもMETALEXに出展している最中でありお忙しい中ではあったが、Chief Officer 鈴木様、Senior Investment Advisor 長谷場様に丁寧に対応いただき、タイの一般情報と経済情報について御説明いただいた。日本と比較し国土は1.4倍、人口は約60%(6700万人)、出生率1.4人、少子高齢化が進んでおりASEAN平均より40年早い2020年には人口減少に転じると推定されている。ASEANの中では日本にとって最大の輸出入国で特に自動車産業が強く、自動車の部品メーカーも多くタイに進出。大洪水の後経済成長は横ばい(GDP成長率3%台維持)であるが政府は産業の高度化、高付加価値化を目指しThailand4.0を掲げ、次世代自動車、スマートエレクトロニクスなど10の重点産業を設定し新投資奨励策を掲げている。新しい産業の活性化を狙っているが半導体製造に欠かせない真空技術など専門技術の発展という観点では、隣国であるマレーシアやシンガポールに後れを取っている。

■METALEX 2017

(会場BITEC: Bangkok International Trade & Exhibition Centre)

11月22日(水)午後～23日(午前)に展示会場の見学。ASEAN地区で最大級の展示会で製造業・加工業、特に工作機械やその周辺産業に従事する者にとっては非常に魅力的なイベント。毎年11月に開催、世界50か国以上からの出展、約3300の企業が参加し来場者は9万人(2016年)。

工作機械の展示数、スペースがメイン会場の大部分を占めタイでのニーズを物語っていた。現地では教育により工作機械を使いこなせるようになっており、プログラミング部分以外はすべてタイ人に任せられるとのこと。さらにタイでの最低賃金の上昇により、人海戦術では他のASEAN地域に勝てないため、ロボットの導入も大幅に進むと考えられる。

■日新電機タイ株式会社訪問

(新明和工業(株)中川JVIA 理事のご紹介)

11月23日(木)に日新電機タイ株式会社を訪問。Director 中野様 Sales Manager 銘苅様にご対応いただいた。当社はバンコクから北に50キロのナワナコン工業団地に位置し建屋面積が19800平方メートル、従業員数はタイ人570名、日本人12名の構成。

各種大型加工機を揃え、設計、板金、切削、溶接、塗装、組立、検査まで一貫したラインで生産を行っている。国内親会社向けコンデンサなどの電力機器製造が主な事業であったが、1998年アジア通貨危機で経営危機に陥り、現地で独自開拓した装置・部品の受託生産の比率が54%と一番高い。ICワイヤボンディング装置の受託製造、米国大手半導体製造装置の板金塗装を受託するなど



懇親会



集合写真



JETRO
(日本貿易振興機構)訪問

高い品質を確保し活発に展開。工場内は整理整頓が行き届き、従業員の皆さんが作業の手を止め立ち上って見学者に挨拶するなど5S教育も徹底されていた。すぐにこのような状態になったわけではなく2011年の洪水の被害(2メートル浸水50日)から結束が固くなったとのことであった。

今後JVIA会員企業でこれからタイ進出を検討するなら、今回訪問した日新電機タイ(株)のような先行する日系企業に生産委託するのも一案と感じた。6割の管理職が女性であることも興味深い。

■視察の成果

最終日の夕食では、参加者全員に今回の視察の成果等を発表いただいた。

団長:JVIA 篠原会長

タイでの真空ビジネスは厳しい状況であることが分かったが、それはこれからまだ発展の可能性があるということでもある。今回の視察で得たことを各社に持ち帰り、またJVIAとしても今後の真空技術利用による発展を目指していきたい。

副団長:JVIA 眞下副会長

日新電機見学、経営危機に陥り、日本からのサポートもない中現地で装置受託組立、検査事業を開拓してきた話、大洪水で壊滅的な被害にあった時も全員が協力し合って工場を復旧した話は熱いものを感じた。今回の視察が良かったのか悪かったのか、続けるべきかどうか皆さんの意見を聞き検討期間も設けて、「入ってよかった工業会」につながるよう活動していきたい。

その他、参加者からは、タイ人の礼儀正しさ、勤勉さ、渋滞していてもクラクションを鳴らさない、教育熱心の反面、街中は交通渋滞、



METALEX 2017



ゴミも多いなどまだまだ改善の余地も多く、発展の可能性を感じた。参加者相互の交流、親睦が深められた。タイ状況の見分が広められたという点は全員共通の意見だった。

■おわりに

最終日フィールドワークの一環として山田長政を長としていたアユタヤ日本人村記念館を見学。アユタヤ王朝は1350年から417年続いたが、外国との交易を盛んにするために外国人居留区を与え、日本人も最大約3000人居住。戦国時代が終わり、行き場を失った浪人が移住し傭兵として活躍、商人やキリシタンなどが住んでいた。タイとの交流が徳川幕府の朱印船貿易時代に遡る歴史に驚き、タイと日本との交流の深さに感銘を受けた。JVIAとしては、タイでの活躍する日系企業への真空関連技術サポートにより日系企業プレゼンスを更に高め、教育体系整備による日本の真空技術の浸透、JVIA企業の事業拡大につながる活動を企画していきたい。

本視察でタイ駐在の(株)アルバック Managing Director 白見様、Director 須藤様、新明和工業(株) 中川様にご案内いただき、スムーズに研修を行うことができたことを感謝いたします。ありがとうございました。



日新電機タイ株式会社訪問



タイ文化(アユタヤ)交流視察